
仮面ライダーOOO/オーズ Ankh Re:birth story

SOS

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーOOO／オーズ Anch Re·birth s

to ry

【Zコード】

N5034N

【作者名】

SOS

【あらすじ】

これはMOVIE大戦MEGAMAXとは違うアンク復活の物語

第1話 旅と出会いと黒いロマ（前書き）

この時点では作者はMEGAMAX未視聴です
更新頻度は低いですがよろしくお願いします

第1話 旅と出会いと黒いコア

「お前を選んだのは俺にとつて得だった。間違いなくな。」

「そう言うと赤い腕は飛んでこうとする

「おい、どこ行くんだよ！？」

「そう言いながら俺はそいつの腕をつかもうとするが届かない

「お前がつかむ腕は、もう俺じゃないってことだ。」

俺がもう一度つかもうとするが、腕は消え手に割れたメダルを代わりにつかみそいつの名前を呼んだ。

「アンク…」

戦いから四ヶ月後：

映司はある国での旅の途中、木陰で休んでいた。

「ここも前よりは平和になつたなあ…。」

映司はそう言うと一枚の写真を取り出した

そこには映司とたくさんの子供達が遊んでいる姿があつた。

だがこの子供達はほとんどが紛争により死んでしまった。
映司はしばらく写真を見てその時の事を思い出していた。

「よしそろそろ行くか

そう言つと写真をしまいながら歩き始めた。

2時間程歩くと砂漠の遠くに町が見え始めた。

「もうすぐ着くな。今日はあそこで一晩すごそう。」

そう言った途端、近くでなにかが爆発する音がした。

「何だ！？」

そう言いながら音のした方向を見ると、バズーカを背負つた亀のような怪人2体と一人の17歳ほどの青年の姿があつた。

「チツ面倒だ…一気に片付けるか…」

青年はズボンのポケットから黒地に青い線が入つた四角いものを取り出し腰につける。それは映司にとつて見慣れていたものだつた。

「えつなんでおーズのベルトが！？」

青年は三枚の鳥がモチーフの黒いコアメダルをオーブドライバーに入れオースキヤナーに読み込ませ叫んだ。

「変身ッ！」

『タカ！クジャク！コンドル！タージャードル』

そして青年は黒いタジヤドルに変身した。

第2話 首と吐き氣と一人のオーズ

「黒いタジャドル…！？」

映司は混乱していた。

少し前まで自分が変身していたオーズが見たことないフォームで目の前にいるのだ。

映司は立つて見ていくことしか出来なかつた。

「うおおおおーーー！」

タジャドルは勢いをつけて怪人にパンチを喰らわせる
さらに怪人が怯んだ隙にコンドルレッグを展開し変則的なキックで連続攻撃をする

「そろそろ決めるか」

そう言いながら手を胸の前にかざすとドライバーに入つているのと
同じコアメダルが7枚現れた
タジャスピナーを近づけるとメダルはスピナーに入つていった
そしてオースキヤナーにタジャスピナーを読み込ませる

『タカ クジャク コンドル タカ クジャク コンドル タカ：
ギガスキヤン…!』

「マグナブレイズ！！」

タジャドルは叫びながらジャンプして不死鳥を模した炎を纏つて怪人につつこむ

怪人は背負つているバズーカから弾を出すが当たらない
ヤバイ思つた片方の怪人はもう一体を盾にして逃げ出した
「なつ！」

盾にされた怪人はなにもできず倒された

「逃がしたか…頭はそこにあるようだな」

そう言いながら変身を解除し町の方向を向いて歩こうとするときを開けてポカーンとしている映司を見つけた

「…おーい…大丈夫か？」

映司は目の前にいる青年の首を掴み揺らしながら質問攻めをしていった

「さつきの黒いコアメダルは何!? なんで君がオーズになれるの!? ドライバーは何処で手に入れたの!?!」

凄い勢いで揺らされ青年は吐きそうになつていた

「手を離してくれえええ————！」

青年が叫ぶと漸く自分がしていることに気がつき手を離す

「あ、ごめん」

「う、吐きそ…ところでなんでおーズの事を知っているんだ?」「俺も少し前まではオーズだつたんだ」

映司は笑顔で話すが青年は驚いていた

「え、本当!?!」

「うん、メダルの事とか全部知つてているよ」

「そつなのか…」

(じゃあこの世界はオーズの世界なのか…ならオーズは味方に入れた方がいいな)

そう考へながら自己紹介がまだだといつ」と思つ出す

「あ、俺はコウイだ。よろしくな」

「俺は、火野映司こちらこそよろしく」

紹介を終えると辺りが暗くなりかけているのに気づいた

「日が暮ってきたあの町で今日は休もうか」

「賛成」

そして町に向かつて歩き始めた

第2話 首と吐き氣と一人のオーズ（後書き）

ちなみにコウイの名前は
まず思い浮かんだ「コウイチロウ」…長い
からロウを引いたコウイチ…ありがち
チをとってコウイ…多分大丈夫ということで決めました
誤字などがありましたら感想の悪い点へお願いします

第3話 最初と試しと再び

町に着いた映司達は宿を見つけ映司の部屋で話をしていた

「なあ、映司はどうしてオーブになつたんだ？」

「旅をしている途中に夢見町という町でお金を貯めていたんだ。アルバイトが終わつた後、欲望の怪人…グリードのアンクというやつに会つたんだ。その時に他のグリードが作ったヤミーに襲われた。そしてアンクからオーズのベルトを渡されて変身したのが最初…俺はこの力が人を助けられると思って戦つてた。でも今はベルトしか無いけどね…」

話終えた映司は暗い顔をしていた

「そうか…」

映司の顔を見てコウイは言葉をかけられなかつた
そのまま沈黙が続き時間が過ぎていった

今日はそれぞれの部屋で休み詳しい話は明日することになった

「ん、じゃ

「おやすみ」

次の日

二人は町の中を歩きながら話をしていた

「コウイのメダルで俺は変身できないのかな?」

「どうだろう…試してみるか」

二人は町から少し離れた場所で試すことにした

「えーとベルトは…あつた」

映司はドライバーを腰につける

それを見てコウイは胸の前に手をかざすとコウイが変身に使つたの

とメダルが十枚現れた

それを映司がそこから三枚とりドライバーにいれてオースキャナーを持ってスキャンするがスキャナーが読み取らない

「あれ？ なんで？」

「どうして事だ？」

考へてみると突然三体怪人が現れた

その中には昨日戦った『カメハズリカ』の姿があつた

「ヨリの判断じゃ駄菴をちあらはば取扱いビターチー！」

「お前らみたひなバカを止めるために囁くんだが仮面ワイヤーは！」

!

コウイはそう言つて相手に突つ込みながらドライバーとメダルとり

「変身ッ!!」

『タカ！ クジヤク！ コンドル！ タージャードルー

「はああーーつ！」

怪人の内二体にラリアットを喰らわせカメバズーカには飛び膝蹴りをする

映司は横でその様子を見ていた

「俺も変身できたら、なあアンケ俺はどうすればいいんだ?」

喜れば赤いノタリを握りながら、そこはいたい仲間は質問する。するとドライバーに入つたままだつたメダルが突然光りだしオースキヤナーが勝手にそれをスキヤンする

『タカラ！ クジヤク！ コンドル！ タージャードルー

映司は赤いタジヤドルに変身した

第4話 必殺と邪魔と謎の影

「え？」

映司は自分でも訳が分からなくなつていた
さつきまで変身出来なかつたが突然変身したのだ
その場で見ていた全員も驚いていた
ある怪人に至つては状況を飲み込めてない

「何で？」

「仮面ライダーが一人だと！？」

「そんなばかな！？」

「？？？」

ひとまず映司はそのまま戦おうとする

クジヤクの羽を展開しそこから弾を飛ばす

「はあーーー！」

「そんなもの避ければいい」

怪人たちは避けるがコウイも近くにいるので当たりそうになる

「おい、危ないだろ！」

「あ、ごめん」

映司はそう言いながらも空を飛んでタジヤスピナーから弾を出して
攻撃する

「俺だつて！！」

コウイもカメバズーカと肉弾戦を始める

まず顔にパンチをしタジヤスピナーから弾をとばす

カメバズーカは避けようとするが次から次へと技がどんどんくる

映司の方も2体相手に有利に戦っている

「決めるよ、コウイ！」

「ああ」

変身の時と同じようにオースキャナーにメダルを読み込ませる

『Scan!』

一人は翼を展開して飛ぶ

そこからコンドルレッグを展開して急降下キックをする

「セイヤーッ！」

「プロミネンスドロップ！！」

カメバズーカはこのままではまずいと思つたが一人のタジヤドルに大きな球が当たり地面に叩きつけられる

それと同時に砂が舞い上がった

「これじゃあなたにも見えないよ！」

映司は立ち上がりて言うがコウイの姿が見えない

「あれ？ コウイどこにいるのーー？」

反応はないのでタ力の目を使って探す

しかしさつきの怪人と別の影が見えた

「誰だお前は？」

誰も答えない

そしてその影は他の怪人と共に消えた

「いなくなつた…？」

少しすると視界が開けてきた

誰もいないのを確かめて映司は変身をといた

「ん、コウイ！？」

映司は左に気配を感じたので見るとコウイが倒れていた

「コウイ！ 大丈夫？ 早く宿に戻らないと」

コウイを背負つて映司は宿に向かつて歩いていた

第5話 過去の記憶とお腹（前編）

今回少し長めです

第5話 過去と記憶とお腹

宿に戻った映司はコウイをベッドに寝かせた
「よいしょ…ふう」

映司はコウイに怪我がないか見る

「怪我はないみたいだね」

映司は自分の部屋に行きベッドに向かって倒れた
コンボを使いさらにはコウイを運んできたのだ疲れないわけがなかつた
(…何で変身出来たんだろう? 他にもコウイには聞きたい事がある
…今は聞けないしひとまず寝よう)

映司は眠り始めた

次の日

朝から雨が降っていた

コウイは窓の外を見ていた

嫌な天気だなあと「コウイがそう思つていると後ろからノックの音がした

「ん、誰だ?」

コウイはドアを見る

すると日本語で呼ぶ声が聞こえてきた

「コウイーーおきてるかーー?」

「映司か…鍵はあいてるぞー」

ドアを開けて映司は入ってきた

「おはようコウイ。調子はどう?」

「問題ない。ありがとう運んでくれて」

「別にこれくらいは…ライダーは助け合いでしょ」

「だよな！」

「そういえば俺はコウイのことなにも知らないね。教えてくれない？」

「そうだな、仲間同士情報は共有した方がいい。まずは俺のことから話すか…」

「そういつた途端コウイの顔が少し暗くなつた

「俺は…この世界の人間じゃない」

「…え？えええーーー！？それってどうこいつのこと！？」

「俺の世界はオリジナルの世界…簡単に言うと俺の世界で生まれたものはパラレルワールドとして成立する」

「…なんだか難しいなあ」

「他に説明のしようがないんだよな…まあこのまま続けるけど。俺はそこで普通に生活していた。でも学校の帰りに滅びの現象を見た」「滅びの現象？？」

「簡単に言つと建物がセルメダルに変わるような感じかな」

「それを目の前で見たの？」

「ああ…建物が消えた瞬間目の前に何十体もの怪人が現れた。怪人は俺を狙っていた。だからとにかく走つて逃げた…でも追い付かれた。その時に横にあつたゴミ袋の下に仮面ライダーのベルトがあつた」

「それはオーズのベルト？」

「違うベルトだった。でもなせか分からぬけど俺はそれを知つていた。変身して戦おうとした。ひとまずその場は切り抜けたけどその世界は滅びていた。その時謎の声が聞こえて俺はその通りにオーロラをくぐつた。そこは別の世界だった。そこからは怪人を倒してオーロラをくぐつての繰り返しで今に至るというわけさ」

「そりだつたんだ…じゃあベルトとメダルはどうやって手にいれたの？」

「俺も分からぬ……この世界に来たとき手にもつっていた。俺もこの世界に来る前の記憶が一部無くなつていてよくわからないんだ」「なんだ……そいえば俺はなんで変身出来たんだろう？・コウイは何か分かる？」

「さあ……俺もメダルについては全然わからぬんだ。俺が変身できる理由も知らないし」

「だよね……」

すると映司のお腹から音がなつた

「ああお腹すいたなあ」

「もうそんな時間だつたか……今から食堂行くか」

「うん！！！」

二人は食堂へと向かつていった

第5話 過去と記憶とお腹（後書き）

「ウイの世界は今自分が生きている世界と考えてください。この世界で出来たもの例えばこの世界で仮面ライダー オーズという作品ができたらそれがパラレルワールドとして成立という感じです分かりにくくてすみません

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5034z/>

仮面ライダーOOO/オーズ Ankh Re:birth story

2011年12月25日14時48分発行